

国立国語研究所学術情報リポジトリ

宮崎県都城市方言録音資料

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮地, 裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003022

方言録音資料シリーズー2

宮崎県都城市方言録音資料

1 9 6 7

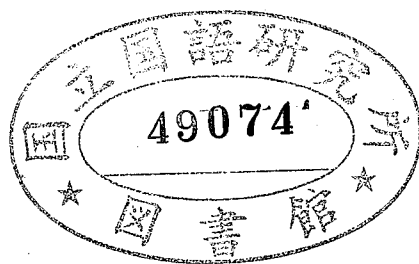
国立国語研究所
話しことば研究室

93

01

2

777669



国立国語研究所



1001877669

ま え が き

1. この資料は、宮崎県都城市方言^{みやきのじょうし}の自由対話の録音を音韻表記し、標準語訳をつけたものである。
2. 対話者は、友重和郎さん^{ともしげ かずろう}（略号 T，1926（大正15）年11月20生まれ）と平川友次郎さん^{ひらかわともじろう}（略号 H，1927（大正16）年2月22日生まれ）で、2人はいとこ同士。幼時から親しく、現在も都城市上長飯町^{かみなが いばら}内のごく近所に住んで、ともに農家の主人である。録音時には、2人とも36歳。
3. 録音年月日は、1963（昭和38）年2月27日。
録音内容は、ほとんど、身ぢかな農事であり、話しぶりもごく自然だとみとめられる。
録音テープは、話しことば研究室に保管してある。録音状態は、バックノイズがあって、十分よいものではないが、方言による対話の自然さなどにおいて、他の同方言録音資料よりすぐれていたもので、これを対象資料にとりあげたのである。
4. 資料の作製については、対話者2人の近くに住む同市五十市^{いそいち}中学校教諭鈴木久雄さん（対話者たちと同様に、同町に生まれ育った。宮崎大学出身。当時32歳。）の協力を受け、作りあげてから、鹿児島大学教授上村孝二さんに校閲をしていただいたが、訂正を要しないようだとのことであった。原稿の清書・タイプなどには補助研究員衛藤蓉子が当たった。
5. 音韻表記の方式は、地方言語研究室編『鹿児島方言録音資料』（1965年、編者上村幸雄）に準ずる。ただし、i・u の無声化は、とくに表記しわけず、半長音には ' を用い、また、発話の音調をカギカッコ式の「「 〴、〵〵 」」「 〴」などで表記し、さらに、文節的ひとまとまりの部分ごとのアクセント発話調査をおこなって、その高い部分をその下に _____ を添えて表わした。なお、文頭の番号は文ナンバーである。

1967（昭和42）年3月

宮崎県都城市方言録音資料

- T (1) u^ci o^qke.
うちに おるかい
- H (2) oⁱ.
おい
- T (3) jo^ka baⁿna[:].
よい 晩(です)なあ
- H (4) jo^ka baⁿgwahiga.
よい 晩ですが……
- (5) ko^ra k^judo^{ma} mezu^rasi unga ma^ta huq^{na}:.
これは きょうなど 珍らしい ものが また 降るなあ
- T (6) ho:q^deo.
そうですよ
- H (7) moⁱ ko^ra ko^tosi^de ko^ra ko^tosaⁱ mo ju^qga
もう これは ことしで これは ことしは もう 雪が
ko^ra saⁿdoⁱ huⁱga, ko^tosi^do^{ma} mi^qga a^raⁱ
これは 三度 降るが ことしなど 水が
suimekai.
ありはすまいか
- T (8) karaⁱmoⁿ to^ko^haru^ke i^take.
甘藷の 床はらいに 行ったかい
- H (9) ho:q^de cuⁿteka^qtadoⁿ osu na^qkai k^juwa
それで 冷たかったけど 遅く なってから きょうは
i^q ko^qzja^qta^qo, ho^qde.
行ったのだったよ そう
- T (10) keⁿaga^rec^jo^qc^joga, so^rja.
(雪が)流れていたろうが それでは
- H (11) unⁿja[:] ma^da: so^gen hi^ga
いいえ まだ そんなに 陽が
te^qc^jo^raⁿka^qt^akai /un/ ma^da cuⁿz^joi
照っていなかったから まだ 積んでいる

ko^ʔta cu^ʔNzjoqtado.
 ことは 積んでいたよ

T (12) (cu^ʔ)Nzjoqke.
 積んでいたかい

(13) o^ʔimo^ʔ ke^ʔsa^ʔ sicizino naq^ʔ to^ʔq oki^ʔq mo^ʔ
 俺も 今朝 7時の 鳴る とき 起きて もう

i^ʔqba^ʔN mo^ʔ: bebun^ʔ hanno^ʔ cugo^ʔmo^ʔ (sicjora^ʔN
 一番さきに もう 牛の 飼料の 都合も していない

uq^ʔkai^ʔ hata^ʔke^ʔ itara^ʔ) ma^ʔda^ʔ so^ʔN toqzu^ʔra^ʔ
 うちから 畑に 行ったら まだ その 時までは

jo^ʔkaqtado oma^ʔ ʔ.
 よかったぞ お前

H (14) ʔe^ʔ ʔe^ʔ:.
 ええ

(15) ko^ʔto^ʔsja^ʔ ho^ʔqde^ʔ: zjama^ʔu^ʔNga^ʔ haqtare^ʔq^ʔ
 今年は それで 邪魔物が 何度も
 (度々)

ku^ʔikai^ʔ nusa^ʔzina^ʔa^ʔ:.
 くるから 困るなあ

T (16) u^ʔ:N.
 うん

(17) ju^ʔka^ʔ ho^ʔ:ne^ʔNcsi^ʔ ju^ʔge^ʔna^ʔzi^ʔ jo^ʔka^ʔro^ʔda.
 雪は 豊年と 言うそうだから よいだろう

H (18) ʔja^ʔ:.
 そうさ

(19) mo^ʔ ja^ʔmai^ʔqdo^ʔma^ʔ su^ʔNmjahi^ʔcjo^ʔ:.
 もう 山行きなど すんだのでしょ

T (20) u^ʔ:Nnja^ʔ.
 いいえ

(21) ma^ʔ nisa^ʔnci^ʔwa^ʔ ika^ʔna^ʔ na^ʔra^ʔnda^ʔqdo^ʔN ma^ʔda^ʔ
 ま 二三日は 行かなくては ならないのだけど まだ

i^ʔqko^ʔzja^ʔ ku^ʔima^ʔra^ʔnga^ʔ ko^ʔra^ʔ:.
 いっこう 実行できないが これは……

H (22) waga^{eN} ko^tsu^u si^ore^ba ja^qpaiⁱ ja^ma^N ko^ciⁱ
 わが家の ことを していると やっぱり 山の ことは

cu^giⁱ hi^Nna^qna^ː.
 次に なってなあ

T (23) omai^gat^a bas^jo^ga ci^keka^qt^azi jo^kaka^qt^aː.
 お前のは 場所が 近かったから よかったなあ
 (君)

H (24) u^N.
 うん

(25) ma^ː oiga tok^oa ko^tosa bas^jo^ga
 ま 俺が 所は 今年は 場所が

jo^kaka^qt^akaiⁿaː.
 よかったからなあ

T (26) u^N
 うん(そうだ)

H (27) ma i^qne^N i^qne^N tahiko ara sunmekai.
 もう 1年 1年 焚くだけ あるのでは なかろうか

T (28) oiga^ta hame^qke ci^qto^zu^q to^qcjo^qta^ra
 俺のは 励んで 少しずつ 取っていたら
 (なんども)
 mo^ː mo kora ma^ː h^jtoba^sj^oz^jaga ko^raː.
 もう もう これは もう(あと) 一場所だが これは……

H (29) ma^ːda imakaⁱde^N oma^ː mada ni^gaq^zjaːna
 まだ 今からでも お前 まだ 二月だよ

ko^raː.
 これは……

T (30) hi^ga nago nai^kaiⁿaː.
 日が 長く なるからなあ

H (31) u^N.
 うん

T (32) sigo^qno sj^de^ga a^ro^daː.
 仕事の し甲斐が あるだろう

(33) ma^ː i^ma bebu^ga ko^o u^N oma^ː.
 ま いま 牛が 仔を 産んだよ お前

H (34) u^N.
そう

(35) (o m a i g a q m o) u^N k o r o z j a n a: .
お前のも 産む 頃だなあ

T (36) k i n u u^N m a r e q n a: .
昨日 産まれてなあ

H (37) e.
え?

(38) m a k o c i k e: .
まことかい
(ほんとうかい)

T (39) u^N.
うん

(40) d e h i h i c i^N s a n d o s i b o i k a t a z j a: .
それで 一日に 三度(乳を) 搾りかただ

H (41) e: .
ええ

(42) n a n d o n n o d e q k e j a q c j o k a i .
何殿の でてきなさったろうか

T (43) a: g a n z j o n a k o q t e d o^N z j a g a: .
ああ 頑丈な 雄牛殿だが……
(丈夫な)

H (44) e.
ええ

(45) j o b i t a i .
予備隊(自衛隊には男が行くからユーモラスに雄牛を言ったもの)

T (46) j o b i t a i o .
予備隊だよ

H (47) s a t a n o s u^N z j a: n a .
それなら 楽しみだな

(48) n a n g a u n m a r e t e^N o m a: .
何が 生まれても お前

T (49) u: ^N.
ううん

- (50) huta^[ci] naq^[zu] ka^[N]ge^[c]joqta u^[N]na[:].
二歳に なるまで 考えていた ものなあ
- (51) /u^[N]/ ugre^[do]Nzjaga[:].
うん 大食い殿だが……
- (52) mo[:] i^[q]do^[ki] sa^[N]zjubaq^[kai] kura^[q]do oma[:].
もう 一度に 三升ばかり 食うよ お前
ko^[N]ndo^[N]ta.
今度のは……
- H (53) e^[e].
ええ
(そうか)
- (54) sa[:] hucu na^[r]o^[da].
それでは 大きく なるだろう
- T (55) (hoq) de[:].
そうだよ
- (56) ha^[jo] huto(raseq) da^[sa]na^[na] oma[:].
早く 太らせて(市場に) 出さなくちゃ お前
- H (57) ja^[pai] i^[qu]na^[na] tano^[s]ju^[N]zjakai^[na].
やっぱり 生き物は 楽しみだからなあ
- T (58) ja[:].
やあ
(そうだと)
- (59) so^[ki] na^[N]ka ora^[N]na ja^[pai] site nihiq^[z]ja[:].
そこに 何か いなくては やっぱり 下に 二匹では
(頭)
to^[zi]Nno^[hi]na[:]. /u[:]N/ ko^[ma]Nka^[q]de^[N]
さびしくてなあ うん 小さいのでも
ore^[ba] jo^[N]ni kora: niqgija^[ko] naq^[ta]do^[N]
いると どうか これは 賑やかに なったけど
oma[:].
お前
- H (60) z^[ja]q^[to]:na[:].
そうだと
- (61) oma^[i]mo k^[jo]ne^[N]z^[u]ra oma: jo^[N]hiq^[ba]ka^[kai]
お前も 去年までは お前 四匹ばかり
(頭)

oq¹t aq¹z jaqzi¹na¹ hara.
 いたのだからなあ ほらー

T (62) ja¹.
 やあ
 (そうだ)

(63) bakana kocu uqtaqta un^Nz jakai.
 ばかな ことを はじめた もんだから……

T (64) hitoide^{ga} hoq^{do}N migoe^{kar}o go^{ta}:i¹.
 ひとりでが それでも 辛い ようだわい

H (65) zja^{ro}..
 そうだろ

(66) mo¹ kon^{da} sanbanbarazja^{ro}.
 もう 今年は 三番腹だろう?

T (67) san^{ba}N'o.
 三番だよ

H (68) sanbanbarabaq^{kai} naq^{to} dai^{bu} so^N.
 三番腹ばかりに なんと だいぶ その

njubo mo¹ haq^{zi}na¹:.
 乳房も 張るからな

T (69) u:n.
 うん

(70) kon^{da} bakeq^{ga} jaq^{to} sukaqdo o(ma).
 今度は バケツが やっと すえられるぞ お前

H (71) ee:.
 ええ
 (ほう)

(72) sorja tanosin^Nzja:.
 それは 楽しみだ

T (73) akena un^Nz jaq^{ten} tano^sju^Ndena^a:.
 あんな ものだっても 楽しみでなあ

H (74) u:n.
 うん
 (そうだとも)

(75) mo¹ hoq^{de}N kora¹ nigaq^{mo}.
 もう それでも これは 二月も

asita^zui^zjaⁿaga:
明日までだそうだが……

T (76) u^N.
うん

H (77) sjo^{ga}ga^{ga} ko^Nmae^e ki^{ta} go^{ta}qtado^N mo^{he}
正月が この前 きた ようにあったけど もう

ni^{ga}ga^{ga} ha^qci^qka^{ja}i^{ge}na^{ga} hi^{ma} i^{ra}^N
二月が 走って行かれるそうだが 暇の いない

u^Nzja^{na}:.
ものでなあ

T (78) ko^Nmae^e hu^qto^{ka} ozi^{ga}e^{de} sjo[:]c^{ju}do^N
この前 大きな 伯父の家で 焼酎など
(上の)

ku^{ro}ta go^{ta}a^{iga}.
喰った ようだが

H (79) a[:].
ああ

(80) mi^Nna^{na} /e:/ ga^Nzi^qno hiⁱ
みんな 元日の 日

ha^cu^{ga}o-awase^{de} mi^Nna^{na} jo^{ka} ni^{se}^N
初顔合わせて みんな よい 男ぶりに

na^qcjo^{ja}ta^{do}n.
なっていたけれども

(81) /e:/.

T (82) nama-rokuzju:do(mi naqto) neq^{kai}
(接辞・強意に使う) 六十歳にも なると すべて

hi^{ge}ga^{ga} ki^qsi-na^{go} na^qki^cjo^q.
ひげが 長く なってきていて

(83) ko^{to}s^{ja} o^{mai}to^{to} i^qdo no^Nda^a ba^qkaⁱke^{na}.
今年は お前と 一度 飲んだ ばかりかな

ahjkode.
あそこで

H (84) 「s^o:ja^{na}」: .
 そうだな

(85) naⁿg^{ja}: soⁱkaⁱ nju:gju: - kumiaⁱno^o
 何違う それから 乳牛組合の

siⁿneⁿkwai^{ga} aq^{ta}:na.
 新年会が あったじゃないか

T (86) 「a:」.
 ああ

(87) 「zjaq^{ta}na」: .
 そうだったなあ

H (88) jaq^{pa}i so^{ge} si^{te} kumia^{ju} cu^{ku}q^{cj}ore^{ba}
 やっぱり そんなに して 組合を つくっておれば

a'ju' siⁿneⁿkwai^{to}ka ma: uhino
 ああいう 新年会とか あるいは 牛の

cume^{ki}i^{to}ka cju^{qs}ane miⁿna hito^{to}ko^{de}
 爪切りとか 言って みんな 一箇所で

ka^odonⁿ awasu^{qto}mo^o jo^{ka} go^{ta}q^{na}: .
 顔など 合わせるのも よい ようにあるなあ
 (ようだなあ)

T (89) ma^aig^a iq^{ba}nⁿ sa^{qni}nno tanos^{ju}n-zja^{na}:
 ま あれが 一番 作人の 楽しみだな
 (百姓)

(90) /a: / .

(91) go^{ra}q^{ga} ho^{ke} ne^{ka}i mo^o non^{ka}taⁿ
 娯楽が 外に ないから もう 飲み方の

tano^{sju}n^{zja}:na.
 楽しみだよなあ

H (92) to^{ko}ro^{de}o /un/
 ところでだが

o^{ma}: ko^{to}sa: nju:gju:kumiaⁱno^o
 お前 今年は 乳牛組合の

kumiaⁱc^{jo}:zja^{ga}.
 組合長だが

(93) /uN/ i k a g e N^{na} c u m e d o N^{na} k i q t a n a iⁱ j u a^a
 いい頃には 爪など 切ったなら よくは

a i m e k a i .
 あるまいか

T (94) s o g e N^{na} k a n g e c j o q d o N^{na} o m a^a i m a (z u iⁱ c i c i o^o
 そんなに 考えているけど お前 今まで 乳を

d a s a n k a q t a k a i) o m a :
 出さなかったから お前

n o : m i n k o ' s j a t o^o r e n r a q g a^a i q k o z j a^a
 農民公社と 連絡が いっこうに

t o r e n z i n a : . / e e : . / a n d o d o N^{na} n i m o^o
 とれないしなあ ええ 安藤殿にも

j u c i t a d o N^{na} : . / u N^{na} . / a n n u h i m o^o (i k e n^{na}
 言っておいたけどなあ うん あの 人も いかにかに (どう)

s i t e n) d o s o n t o n z j a k u s e n u n z j a k a iⁱ
 しても その 頓着 しない ものだから

k o n m a iⁱ j a m a m o d o r iⁱ j a m a s i t a d o N^{na} t o^o
 この前 山戻りに 山下殿と

i q k j o t a q o . / u N^{na} . / t a n o N z i t a d o N^{na} o m a : ,
 会ったんだよ うん 頼んでおいたけど お前

d e : a q c i N^{na} c u g o g a^a j o k a s i d a iⁱ s o n^{na}
 それで あっちの 都合が よい 次第 その

i q k a s u q c j u k o q z j a q t a q d o N^{na} : . / u N^{na} . /
 言って聞かせるといふ ことだったんだけどなあ うん
 (教えるといふ)

(m a d a h o q d o N^{na} n a n n o k o q m o) n e^e t o k o z j a r o^o .
 まだ それでも 何の ことも ない ところだろう?

H (95) e e : .
 ええ

(96) a n u (h i m o h a r a) j a q b e^e d e i j a q z i n a : .
 あの人も ほら 役場に 出ていらっしゃるからな

T (97) j a : .
 やあ
 (そうだと)

(98) ni ci jo: bi wa hi ma ga ai a q c ju o i ja q ta wa.
 日曜日は 暇が ある ありとっておられたよ

H (99) ee:.
 ええ

T (100) ni ci jo: bi mo ja q pa i ho ke na n ka: ho ka n
 日曜日も やっぱり 外に 何か 外の

kumi ai de mo i q ta q z ja ro ka i ci om o c jo i ga na:.
 組合にでも 行ったんだろうかと 思っているんだがなあ

H (101) u: N.
 うん

T (102) mo: ora ho q de ko n do n u si ga un ma i
 もう 俺は それで 今度の 牛が 産む 前

zi bu n de u si to n bu n de n c u ku q se si ta q o.
 自分で 後の 分でも(はさみを)造って したんだよ

H (103) ee:.
 ええ

T (104) (ho q de ka ra n to) to n gi q c jo q na:.
 そうでないと とんがっていてなあ

H (105) u N.
 うん

(106) a n c u me ga to n gi q c jo q to /u: N/ ci ci o
 あ の 爪が とんがっていると 乳を

hu n ki: ka i na.
 ふみ切るからな

T (107) n ju: to: o ja ro go ta q ta ka i na.
 乳頭を やり そうだったからな

(108) (ma e:).

H (109) mo: ho q do n ci ke u ci.
 もう それでも 近い うちに

T (110) /u N/.
 うん

H (111) kiq moraq go site kuretaio.
 切って もらう ように して くれ給えよ

T (112) oi ga mata itaqmi:ga.
 俺が また 行ってみるが……

H (113) uN.
 うん

T (114) koN nisan ciN ucina mata jamaN agaqzi.
 この 二三日の うちに また 山に 上るから

son toq modori cjoq jogmi:ga /uN/.
 その 時 帰りに ちょっと 寄ってみるが

(115) kuima raN unzja makoci.
 実行できない ものだ まことに

H (116) unnja.
 いいや

(117) jaqpai ima no:kan kizjaqdon ma muqno
 やっぱり 今 農閑期ではあるけど まあ 麦の

teirezja jamaiqzjaci iqoreba hiwa
 手入れだ 山行きだと 行っておれば 日は

mihjkesina.
 短いしなー……

T (118) u:N.
 うん(そうだと)

H (119) (sohi) uci oqteN asanme hajokara
 それに 家に いても 朝の間 早くから

sigoqdoma sia naaNsi.
 仕事など しは できないしね

(120) mo hoqdon kora sangaci narja.
 もう それでも これは 三月に なれば

botswbotsw ko ra onsjo o detai /u:N/
 ぼつぼつ 温床を 出した

karaimon toko o detai senna naranga
 甘諸の 床を 出した しなくては ならないが

kora: .

これは—

T (121) koto^sjaⁱ, juq^{ga} tsu^{ju} huqtazi karaimo^N
今年は 雪が 強く 降ったから 甘藷の

kuqsare^{ga} ukac^{ju} hanasizjaq^{do}.
腐れが 多いという 話だぞ

H (122) zja^{ga}na^{ga} hoq^{de}: .
だという話だが それで……

T (123) u: ^N.
うん

H (124) tanegaraimo^N ne hito^{ga} ukagen^{ado}: .
種甘藷の ない 人が 多いそうだぞ

T (125) taneimo^{ga} e: to jaq^{sa}n e^{de}
種いもが えーと 安久の 家で

(hanasizjaq) taga^{na} i^qkwang^a
話だったがな 一貫が

hacizjueⁿbaq^{kai} (kotosi suqci ju^oqta.)
八十円ばかり 今年 すると 言っていた

H (126) e^e: .
ええ(そうかね)

T (127) u^N.
うん

H (128) zja^{ro}naⁱ: .
だろうな

T (129) hoq^{de}: mo aq^{tsi}zja son un^{ma} usi kwasui
それで もう あっちでは その 馬 牛 食わせる

ja^{ta} o^{ra}nci ju^{ga}na.
奴は いないと 言うがな

H (130) e^e: .
ええ

T (131) tege son tane^N jo^{ka} karaimowa tane^N
たがいが その 種に よい 甘藷は 種に

uroci toqcjoigenado oma: .
売ろうと にとっておくそうな お前

H (132) $\begin{matrix} e & e : \\ \text{え} & \text{え} \end{matrix}$.

(133) ^[a]ma^[a] k j o n e n n o h i k o b a q ^[kai]kai k a r a i m o ^NN
 また 去年の ほどばかり 甘藷の
 (ように)

so: ba^{ga}, 'j o^k a^r e ba^{na}..
相場が よくあればな

T (134) 'u': N .
うん

H (135) sa: kotosijaq^{te}_N karaimo_N neda_Nna¹₍₁₎
 それでは 今年だって 甘藷の 値段は

joka koto^a si^reci^roqzi oma^l sora^l.
よい ことは しれているから お前 それは……

T (136) mo ko r a ka ra i mo z a q g a i q b a N i ma N to k o
 もう これは 甘藷作が 一番 今の ところ

daq^{na} naN^{zja} moN^{na}.
 楽な なんだ ものなあ

H (137) $\frac{[O]}{(n)}$: .
 おう
 (そうだ

(138) bu¹na¹N z ja ra¹na¹.
無難だな

T (139) $\frac{[u]_N}{\bar{u}n}$.

H (140) mo ko q ci no ho^N ko^N mi ja za q ke^N no
もう こっちの 方の この 宮崎県の

h i k o b a q ^[kai] t a i h u d o n ^[ga] k i ^[tai] o .
 ほどばかり 台風などが 来たりね……
 (ように)

T (141) $\frac{u}{\bar{u}}^N$.
うん

H (142) sure^[b̥a] ^[mo]₁, ko^[mj̥a]: (soh j ko) se^[ka]
 すれば もう₁, 米は それこそ

tanosi^Nda baqkai^{de} kama^{geN} ire^Nna^{mo}
 楽しんだ ばかりで 吠に 入れなければ もう

ocicuka^a na(r)a^{Ngana}.
 落ちつきは できないがな

T (143) zjaga /a:/ makociⁱ.
 そうだが ああ まことに

H (144) (sohi) karaimowa^a zida^N nake^e iq^cjoikaina^{na}:.
 その上 甘藷は 地面の 中に いているからな

T (145) u^N.
 うん

(146) (ma) karaimodo^Ngaⁱ, oqdomina^a ota^a saq^{zja}ⁱ;
 まあ 甘藷などが 俺たちには 合った 作だ

(147) karaimo^{to} ciciusi^{to} jaqike^e(b)a^{ma}: moⁱ
 甘藷と 乳牛と やっていけば まあ もう

kome^N howa^a sogenⁿ na[:].
 米の 方は そんなに なあ

H (148) u^N.
 うん

(149) maⁱ, son^{ci} engei^{doN} ciq^tobaqkaina^{na}ⁱ.
 まあ それに 園芸でも 少しばかりな

T (150) u: N.
 うん

H (151) himahimade cukuqcjokeba.
 暇々で 作っておけば……

T (152) sogen^N ie^e(b)a^a omai^{geN} nasuqno^o naewa^a
 そんなに 言えば お前の所の なすびの 苗は

(doge)^a na^a koq.
 どんな ふうかね

H (153) ima[:]; meo^o waqcjoiga gotaiga^o.
 今は 芽を 割っているようだがね
 (芽を出している)

T (154) meo^o waqcjoi.
 芽を 割っちゃう(種が割れて芽を出している)

H (155) u^N.
うん

T (156) oiga^ta['] ikankaq^ttagaⁿa[:].
俺のは いけなかったがなあ

H (157) ee[:].
ええ

T (158) (dosite^N) hanbun^Nna decjoime['].
どうしても 半分は 出てはいまい

H (159) tane^ga warikaq^taq^zjarokai, soito^{mo}
種が 悪かったのだろうか それとも
toko^o dasikata^ga warikaq^taq^zjarokai.
床を 出し方が 悪かったのだろうか

T (160) son^N tanemo^Nnjan si tan^Nneqmireba oma[:].
その 種物屋の 人に 尋ねてみれば お前
son kotosino hacugan warita e:to anta
その 今年の 発芽の 悪いのは えーと あれは
nanci juken^a: teionsjo: gaika, /ee[:]./
何と いうかな 低温障害か, ええ
teionsjo^gai^zjaqzi (oma[:]).
低温障害だから お前

H (161) ee[:].
ええ

T (162) teionsjo: gai^zjareba son zenbuga zenbu[']
低温障害であれば その 全部が 全部
son hatsuga se^N haqzjaqdo^Nna[:].
その 発芽 しない はずじゃけどな

H (163) ho[:].
ほう

T (164) hatsuga^to sicja ma[:], hometa hatsuga^zja[']
発芽と しては まあ ほめた 発芽じゃ
nekaq^ttakai oiga tanemo^Ne itaq jakamasju
なかったから 俺が 種物屋へ 行って やかましく

jutaqo.
言ったんだよ

H (165) ho: .
ほう

(166) son tanemonjawa sa: ma: sogen jukamo
その 種物屋は さあ まあ そんなに 言うかも

sirenwana .
しれないよな

(167) teionsjo: gaizjaqci ju:kamo sirendon ,
低温障害だって 言うかも しれないけど

hoqdon soiga rozini tada jaqtozja
それでも それが 露地に ただ やるのでは

noqsane onsjo: o cukuqsane . / ja: . /
なくて 温床を 作ってね…… やあ(そうだとも)

(sohi) jaqtozjakaina: .
そして やるのだからなあ

T (168) zjaqten oma: jakande nizju:dokai
ではあっても お前 夜間で 二十度から

sagaran tozjakai teionsjo: gaicju nana
下らないのだから 低温障害という 何は

neqzjaqzia .
ないのだから……

H (169) a: .
ああ

T (170) e motoga warikaqtaqzjana .
え(それなら) 元が 悪かったんだな

H (171) jaqpai motozjana .
やっぱり 元だな

T (172) sinjo: sisugiqcjoqtakai ikankaqtami jan .
信用 しすぎていたから いけなかったんだよ

H (173) oiga meitosi toq tokokai hara kotohimo
俺が 毎年 取る 所から ほら 今年も

「taneo」 「toqkitara」 「mo」: warito ha 「mo」
種を 取ってきたら もう 割に もう

hacizi qpa: sentowa ma macigai 「neci ju」
八十パーセントは ま まちがい ないと いう

hosjo: o cuketadoN mada ima meo waqsane
保証を つけたけど まだ いま 芽を 割って

「deqkuq tokozjakai mada iman toko」,
出てくる ところだから まだ いまの ところ

donokurai deqkuika wakarandona「na」.
どのくらい 出てくるか わからないけどなあ

T (174) uN.
うん

(175) i「ma」 nanbubaq「kai」 u「juqto」.
いま どのくらい 植えるの?

H (176) 「so: jana」: 「ma」: ue「teN」 goroqpjaku-zjarona」:
そうだなあ まあ 植えても 五六百だろうなあ

T (177) e: .
ええ

(178) 「son」 konaega」 nokoq to「ka」 (oigaqmo, ciqto
その 小苗が 残る 時は 俺のも ちょっと
(俺の方へも)

mai q kurui goq sitekure「Nke」.
まわして くれる ように してくれないか

H (179) 「u」N.
うん

(180) sa「:」 nokoro「da」.
それは 残るだろう

T (181) 「u」n.
うん

(182) (do: jaqteN oimo) goroqpjaq u「juqto」 moq
どうやっても 俺も 五六百 植えようと 思って

(ahiki) sikake(c) joqta(a) qzi.
あそこに しかけていたんだから

H (183) ee.
ええ

T (184) noko(iden) (s)uq toka jaq kuretai.
残りでも する 時は やって くれ給え

H (185) jaqpai son engeino ho:zjaqten kokode,
やっぱり その 園芸の 方であっても ここで

uecjokeba jaqpai naqno man natsugaren
植えておけば やっぱり 夏の まの 夏枯れの

toqgana iko: tami naikaina:.
時がな 大部 ために なるからなあ

T (186) ki remaga kozi sunkaina: /u^N/ area
きれ間が こずに すむからな あれは
(端境期のこと)
cjoqto.
ちょっと

(187) jaqpai naehansaqde naega iqban(guci
やっぱり 苗半作で 苗が 一番先に

agen) sikuziqcjoqto tanosinga ne'gao:.
あんなに しくじっていると 楽しみが ないよ

H (188) haa: jaqpai tanosjunga ne'na:.
はあ やっぱり 楽しみが ないなあ

(189) /u^N/.

(190) kotosa muqdoma makoci minna uecjo razina.
今年は 麦などは まことに みんな うえていないなあ

T (191) kokon hanna, kjosaikumiari sinkoku
この 班は 共済組合に 申告

sicjoq hitowa omaimo sicjoranzja nohike.
している 人は お前も していないのじゃ ないか

H (192) (unn) ja.
いいや

(193) ora sicitado.
俺は しておいたぞ

T (194) ciq^ʔta^ʔ sicjoqke.
少しは しておるかい

(195) u^ʔN.

(196) oi^ʔga^ʔ iq^ʔba^N u^ʔkaqtaqci^ʔ nobujosisa^Nga
俺が 一番 多かった 信義さんが
juoqtado.
言いおったぞ

H (197) ee:^ʔ.
ええ

(198) oi^ʔmo^ʔ sandanba^ʔq^ʔkai^ʔ sic^ʔjo^ʔka senkaqtake^ʔ
俺も 三反ばかり しておきは しなかったかな
kotosa^ʔ.
今年は

T (199) e:^ʔ.
ええ

(200) koto^ʔsa^ʔ sicjo^ʔkja^ʔ ko^ʔra^ʔ kakaq^ʔdo oma:^ʔ
今年は しておけば これは かかるけど お前
kohi^ʔko^ʔ ko^ʔra^ʔ juqjara nanka hamehike
これだけ こら 雪やら なんか 何度も
kurea /u:^ʔN/ kanec^ʔja^ʔ mo:^ʔ hucu:^ʔ
くれば かねては もう 普通
enbaqzjaqt^ʔe^N ki^ʔqkuwase^ʔa naq^ʔtaa^ʔqdo^N
燕麦であっても 切って食べさせは なるんだけど
(oma^ʔ) koto^ʔsja^ʔ kwase^ʔa na^ʔanzina^ʔ iman^N
お前 今年は 食わせは ならんからな 今の
jona huzja.
ような ふうじゃ

H (201) ha:^ʔ.
はあ

(202) ma^ʔ koto^ʔsa^ʔ reNgejaqt^ʔe^N kjonenzura^ʔ mo^ʔ
まあ 今年は レンゲであっても 去年までは もう

daibun⁷ ki: oqtadon^N na: .
 だいぶん 切っていたけどなあ

T (203) un^N .
 うん

(204) oma: itarian^N kai nan: kai oma: itarian^N
 お前 イタリアのから 何から お前 イタリアの

jona simon^N cuiqga binta^o neqkai⁷
 ような 霜に 強いのが 頭を 全部

jaraecjoigana .
 やられているがな

H (205) ha: .
 はあ

(206) mo⁷ ima⁷ usja⁷ hoqde: aoun^{ga} hitoqmo⁷
 もう 今 牛は それで 青ものが 少しも

(hoq) de⁷ nena⁷ .
 それで ないな

(207) mo sairo^{wa} kuwasetoqtasina: .
 もう サイロは 食わしてしまったしな

T (208) oimo sairo^{wa} kjuzui gaq: cuizjaqta:
 俺も サイロは きょうまで ちょうどだった

/ee:/ soko^{zui} hiqkjageta: .
 底まで ひきあげた

H (209) jaqpai⁷ mo: raziona^N ka kikeba⁷ son^N a:iu:
 やっぱり もう ラジオなどを 聴けば その ああいう

cikusa^N o^() tato: sii^{ku} site(ita)ta
 畜産を 多頭飼育 していたのは

jaqpai⁷ na^N zjana⁷ kon^N naqno manⁱ
 やっぱり なんだな この 夏の 間に

kan^{so}: gusa^o jokei (toi^{jaqto}) zjana⁷ .
 乾燥草を 余計 取りなさるのだなあ

T (210) sogen^N an^N sicjoqcin⁷ .
 そんなに あの しているってな

H (211) o: .
おう

T (212) (sosito) enbaqzjaq^{teN} sairo^N cumezi
すると 燕麦であっても サイロに 積めずに

miqkabaq^{kai} so^N kaqtokeq nagecjokeba
三日ばかり その 刈り倒して 投げておけば

soide ziqpeⁱ arakeⁱ kozuzjokeba
それで りっぱに 荒野に 小積みにしておけば

kanso:guse (naigenadon) oma:
乾燥草に なるそうだけど お前

H (213) e: .
ええ

T (214) min-kon^{mae} oqdonga kumiaicjo^N
(間投詞) この前 俺たちが 組合長の

sinnenkaiga aqtoq^{na} / u^N / minobai^{no}
新年会が ある 時には 養原の

ozisanzjaqta soina kotsu juoijaqtagao:
小父さんだった そんな ことを 言っておられたぞ

H (215) ee: .
ええ

T (216) wasia soide sairo^N cumeta kota neci .
わしは それで サイロに 積めた ことは ない

H (217) e sairo^N cumeta kota neq^{ci} .
え サイロに 積めた ことは ないとね

T (218) u: N .
うん

(219) sairowa moqcjoqdon sairo^Nna cume^N .
サイロは もっているけど サイロには 積めない

H (220) oho: .
ほほう

T (221) mo: kaqtokeqna hoga cjoq dei deq toq
もう 刈り倒してな 穂が ちょっと 出る 出る 時

kaqna' miqkabaqkai nagecjokebanā' soi'
刈ってな 三日ばかり 投げておけば そして

midare^N (kozuzjoqto zjagena.)
乱れに 積んでおくと じゃそうな

H (222) ee.
ええ

(223) zjaronā' /uN/ 'so^N midare^Nkozumi
だろうな その 乱れ小積み

kozume^{ba}', sjo:sjo:na' son 'ao:gaizjaq^{teN}
小積みめば 少々な その 青刈りであっても

ika' cukānci juzina':.
息は つかないと いうからな

T (224) ma' hoqde', soiga' jokarja mo' sairon'
ま それで それが よければ もう サイロに

murisjte tsumui' hjcujo'wa' newana' /ho:/
無理して 積む 必要は ないよな ほう

naqno mawana'.
夏の 間はな

(225) sairo:ga' (aikai hoq)don' kon' huino man
サイロが あるから それでも この 冬の 間の

'bunna' tahikaqdonnaa':.
分は 助かるけど

H (226) a: tahikaina',
ああ 助かるな

(227) cjo:do' sairoo' tsumuq toqga' zju:icigaqno'
ちょうど サイロを 積む 時が 十一月の

iqba^N isogasi 'toqzjakaina':.
一番 忙がしい 時だからなあ

T (228) a:'.
ああ

(229) itacjando^Nga' oma: koto'sja' cumezi
至ちゃん達が お前 今年は 積みめずに

hankibaq^{ka}i kanecja tsumuqtozjaga'
半期ばかり かねては 積むのだが

tsumecjoorazi (uzehike si) oqtado^o..
積めてはいなくて 慌てて いたぞ

H (230) sa^{ra} (uzehi) ke^{ke} suina^{na}..
そりゃ 慌てるなあ

T (231) ma^{ma} sairo^{wa} son^{son} hujuno^{hujuno} aidan^{aidan} nan^{na}ga^{ga}
ま サイロは その 冬の 間の 何が

aigat^{ga}ewana^{na}..
ありがたいな

H (232) aigaten^{na}..
ありがたいなあ

T (233) u^un..
うん

(234) oma^{ma} koman^{ka} sairon^{mo} jaqpai^{jaqpai} tsume^{me}qke..
お前 小さい サイロにも やっぱり 積めたかい

H (235) u^un^{na}ja^{ja}..
いいや

(236) koto^{sa} tsume^{me}zjaqta..
今年は 積みなかった

(237) koto^{sa} huqtokaqno^{huqtokaqno} bunⁿⁱ tsumeta..
今年は 大きいのに 分に 積めた

(238) cjo^{do} sandan^{bu} iqtaga^o..
ちょうど 三反分 入ったが

T (239) zja^{ja}q(ke)..
そうだったかい

(240) ara^{ra} huqtokaqno^{huqtokaqno} hoga^{ga} raku^{ku} suigana^{na}..
あれは 大きいのに ほうが 楽を するがな

H (241) a^a raku^{ku} suina^{na}..
ああ 楽を するな

T (242) age^{ge}n aqto^{to} ho:ku^{de} haneagega^{haneagega} naikai^{naikai}..
あんなに があると フォークで はねあげることが できるから

㊦ (243) 「a:」.
ああ

(244) jaq^{pa}i cjo^{do} 「ma:」 gosjaqnoq^{ga}
やっぱり ちょうど まあ 五尺のが

ika^{ge}n^zja^{na} /u: N/ koq^{ci}zja.
いいかげんだな うん こっちでは

T (245) 「u: N」.
うん

(246) 「mo」 a^N komanka^{ta}「a」, 「ma」 i^{ka}N.
もう あの 小さいのは まあ いけない

(247) tema^o toi gotai.
手間を 取る ようだ

H (248) a.
あ

(249) 「sosite」 「son」 gurui^{no} 「ho^N」 kabiga ku^j
そして その ぐるりの 方の かびが くる

tokozjaq^{te}n^{na} /uN/ u^{ka} u^Nna.
ところだってもな 多い ものな

(250) /u^N u^N u^N/ de naka^N rjo: 「ga」 budomai^{ga}
で 中の 量が 分止まりが

suq^{newa}, jon^sjaqnota.
少ないわ 四尺のは……

T (251) suqnewa^a: .
少ないわー

(252) gaq^{tsu}i mo nju: kanki saqsa aqta.
「ちょうど」 もう 乳間期の 間 あった

H (253) e^e: .
ええ

T (254) a^a: 「ju」 kwaseta.
ああ よく 食わせた

H (255) 「e:」 sang^aciⁱ nare^a 「na^Nzja^{na}」, kora 「mo」
ええ 三月に なれば 何だな これは もう

muqno koeja^{ra} natane^N tomegoedon^N se^N
 麦の 肥料やら 菜種の 止め肥えでも なくては

nara^{Ngana}. kora.
 ならないが これは……

T (256) hoqdee[;].
 それで—

(257) kotosino^{ta} ko^{ra} koesi^{mo} ima^{zja}
 今年のは これは 肥料も 今じゃ

tanosju^{Ng}a ne^jona huzjaga kora:
 楽しみが ないよな ふうだが これは—

H (258) sogen^N ara^{na}:.
 そんなに あるわなあ

T (259) u:^N.
 ううん

(260) ora[:] sjogaqno cu^{ki} si^{ci}ta: toja^{kaq}
 俺は 正月の 月 しておいたら 何とか

haga decjoi gotaiga^o.
 葉が 出ている ようだが

H (261) ee:
 ええ

(262) jaqpai muq^{ga} hajau^{eN} hoga^{na}: /u:^N/
 やっぱり 麦は 早植えの 穂がな ううん

kokode^{ga} jaqpai migo^{ci}gana:
 ここでは やっぱり みごとだがなあ

T (263) cuqire^{kai} nan:^{kai} kotosja mo ko:unkide
 土入れから 何から 今年は もう 耕耘機で

jaqta: korja daqzjaqdon oma:
 やったら これは 楽だけど お前

H (264) zjarona[:] /u^N/ oma: kotosa un^{nja}
 だろうなあ お前 今年はいいいや

kjone^{na} ko:unkio iretakai jaqpai ima
 去年は 耕耘機を 入れたから やっぱり 今
 (購入したから)

hara i r n n a h u k j u : i ⁷ N t o k a n o : k j o n
 ほら いろんな 普及員とか 農協の

g i z j u q s j a t a q ⁷ g a j u j a i k o c u ⁷ k i c j o r e b a
 技術者達が 言われる ことを 聞いておれば

/ u N / m a ⁷ k o i k a i s a k a ⁷ d o g e n (z j a q t e n)
 まあ これから 先は どうであっても

s a q n i n z j a q t e n ⁷ k i k a i k a . . . n i ⁷ n a i j o n a
 作人だっても 機械化に なる ような

h u j a g a k u k a k u s e i c i (u N n) j a
 ふうだが 区画整地 いいや

k o : c i s e i r i j a q t e n ⁷ m o ⁷ , i q t a n b u z j a n o q s a n e
 耕地整理であっても もう 一反ぶでは なくて

j a q p a i s a n d a n b u - k a m a ⁷ j o n d a n b u b a q k a i n o ⁷
 やっぱり 三反ぶか まあ 四反ぶばかりの

h i t o s e m a c u c u k u i j o n a h u j a m o n n a : .
 ひと狭地を 作る ような ふうだものな

T (265) (m a) s o g e n n a r a n n a u s o j a n a : .
 まあ そんなに ならなくては 嘘だな

H (266) m a j a q p a i n o : k a m o k o n h i t o d e h u s o q d e o
 まあ やっぱり 農家も この 人手不足でよな

j a q p a i k i k a i r u i r e n n a , o i c u k a n w a k e j a n a .
 やっぱり 機械を いれなくては おいつかん わけだな

T (267) u : N .
 ううん

(268) h o q d e o m a : k i k a (i) r u i r e q k a (i c i) j u : n n a
 それでよ まあ 機械を 入れてからと いうものは

o i g e n o n a g o j a q d (o m) a (a r a k e) d e (c j a)
 俺のうちの 家内などは 田畑に 出ては

(m i r a n) (u N) n a : .
 みない ものなあ

H (269) e e : .
 ええ

T (270) de muqno te:reke iqdo cureq derasina'.
 で 麦の 手入れに 一度 連れて 出すには
 (出なければならぬ)

(271) sohikai tamaneqno naka zui (zipe kusaga)
 それから 玉葱の 中まで りっぱに 草が

torui) kaina: /e:/ ai:zja.
 取れるからなあ ええ あれでは

(272) ma: oiga kotosi (iqneN jaqmite) joka.
 まあ 俺が 今年 一年 やってみて よい

toka (omaidonmo dositen) irenna ikanna.
 時は お前達も どうしても いれなくては いけないな

(273) joka sinajaqdo:.
 よい 品だぞ

H (274) koiga maciqto zen ga jasito jokadonna:
 これが もう少し 銭が 安いと よいけれどな

/ hoqde: / anmai takekaina:.
 そうだとも あんまり 高いからな

T (275) mada wakezi oma: sjaqkin siteden.
 まだ 若いから お前 借金 してでも

toraNna oma:.
 とらなくては お前
 (購入しなくては)

H (276) ja: mo ima kaoto mocjorebana: /a:
 やあ もう いま 買おうと 思うていればな…… ああ

mo ima / kindaikasikintoka / un /
 もう いま 近代化資金とか

agenaqga jaqpai no:kjon (hoi) aikaina:.
 あんなのが やっぱり 農協の 方に あるからな

T (277) ma agena cu rijo: site son jaqiq goq
 まあ あんなのを 利用 して その やっていく ように

senna: min:naga sinpai suigana:.
 しなくては みんなが 心配 するがな
 (苦勞)

H (278) zjara.
 だよ

(279) isoga^ssi toka^a oma[.] hito^ddo^N tanomociⁱ
 忙がしい 時は お前 人でも 頼もうとしても

tanonda^sa na[:]Ngana[.]
 頼みだしは ならないがな

T (280) u[:]N[.]
 うん

H (281) mo koge^N sio^rrea ko^rra[:] gogaqnoⁱ mu^q
 もう こんなに しておれば これは 五月の

aqmaq^ddo^N ku^to ko^rra[:] ma^ta isoga^su
 灰汁まきでも 食うと これは また 忙しく
 (ちまき)

naⁱj^ona[:]
 なるよな

T (282) hoq^deo[.]
 そうだとも

(283) mo[:] oma[:] ko^rra[:] gogaqno maq sohi^kkaiⁱ
 もう お前 これは 五月の まき それから

naedo^ko[:] koto^sa naedokowa oma[:] doko^koke[.]
 苗床 今年は 苗床は お前 どこかい

H (284) jaq^pai mei^to^si su^q to^ki su^kato omo^qna[:]
 やっぱり 毎年 する 所に しようかと 思ってな

T (285) e ucu^Ngu^q
 え 埋口
 (地名をさす)

H (286) u^N
 うん

T (287) u[:]N[.]
 うん
 (そうだ)

(288) sibai^de^Nmo jaq^pai su^qto[.]
 柴出にも やっぱり するの?
 (地名)

H (289) jaq^pai ahi^ki^{mo} se^Nna[:] so^N katage^kataga^g
 やっぱり あそこにも しなくては その かつぎかたが

nusa^aziⁿa[:]
 困るな

T (290) 'ja:~
 やあ

(291) hitodebusoqkai /a:/ nankai i'kea' jaqpai'
 人手不足から 何から いうなら やっぱり

ahiki sitaga' 'joka:'na'~
 あそこに した方が よいよ

(292) kotosidoma' kora miqdoNga' zjuntaki 'aq'si
 今年あたりは これは 水などが じゅんたくに あって

omota 'goq' keikaqdori kora uetsukega'
 思った ように 計画通りに これは 植えつけが

nare'a' jokagana':.
 なれば よいがああ

H (293) ho:qdeo.
 それでだよ

(294) 'ma'~ kioneNna' harana'~ mi'za' zjuntaki
 まあ 去年は ほらな 水は じゅんたくに

'aqtadoN muqga'~ o'mo' goq to'reNzjaqtakai'na':.
 あったけど 麦が 思う ように 取れなかったからなあ

T (295) ora' hoqde' kioneNna komugu hitoqmo
 俺は それで 去年は 小麦を 少しも

torazi' sundakai koto'sja' komuga hitoq(mo
 取らずに すんだから 今年は 小麦は 少しも

uenka)qta.
 植えなかった

H (296) e~
 ええ

(297) 'mo' ora komuq'to'~ hadaka'to' hanhannina'
 もう 俺は 小麦と 裸麦と 半々にね

u'ecitadoNna'~ jaqpai i'ma'~ mu'gu' cuku'rea'
 植えておいたけどな やっぱり 今 麦を 作れば

awaNcju kot'a'~ oqdoma' siq'cjoqtaaqdoNna':.
 ひき合わないという ことは 俺達は 知っているんだけど

kora /uN/ jaqpai son rakuno: den jareac
 これは やっぱり その 酪農でも やればよ

/uN/ awan muqden cukuqsane ma:
 合わない 麦でも 作って まあ

sirjo:saku moqcju kanqeqo uecjokanna
 飼料作物と 考えてよ 植えておかななくては

do:mo jaqpa ko:nju:sirjo:baqkai zjana:.
 どうも やっぱり 購入飼料ばかりではなあ

T (298) jaqpai uci sanbunno iqden zibunno
 やっぱり 家に 三分の 一でも 自分の

sirjo:de oginoqiq goq senna jaqpai mugu
 飼料で 補っていく ように しなくては やっぱり 麦を

cukuran na:, jaqcukeq ikana: nga.
 作らなくては やっつけて いきはならないが

H (299) uN.
 うん

(300) zjara.
 だが

T (301) mo oma: ko:nju:sirjo:zjaqten oma:
 もう お前 購入飼料であっても お前

nanz jagana son gwaibaqga ima senenkai
 なんだか その 外麦が いま 千円から

unja naibaqga senenkaizjaqdog.
 いや 内麦が 千円からだろうが

H (302) a ma: kju:hjaku-hacizju:enkai jaqpai
 あ まあ 九百八十円から やっぱり

senen zjana:.
 千円だな

T (303) aiga haqkwanzjaqzi na: sohitona:.
 あれが 八貫だからな そうするとなあ……

H (304) a:.
 ああ

T (300) sohi^{ro} oma oqdon^{za} angu uq toka oma
 そうすると お前 俺どもが 麦を 売る 時は お前

senroq^{pjaq} zjaqzi^{na}: .
 千六百だからな

H (306) senroq^{pjaq} o .
 千六百円よ

T (307) mo^(,) ura^{zi} oma hiqwaq kwaset^a hoga
 もう 売らずに お前 ひき割って 食わせた 方が

hiqkaq^{zi} oma zju:roq^{kwa} nzjakai .
 勝つから お前 十六貫だから

H (308) ha^{:(,)} mo soqciga hiqkata .
 はあ もう そっちが 勝つわ

T (309) na^{:(,)}
 なあ

H (310) mo hoqde^(,) hujusaku^{wa} omoni na^{nzjana}
 も それで 冬作は 主に なんだな

usino sirjo^{:jana} .
 牛の 飼料だな

T (311) zjana .
 だな

(312) ma usino hanto moq ujureba mo soki
 ま 牛の 飼料と 思って 植ゆれば も そこに

maqqega ne monna / ha[:] / jaqsen toka usi
 まちがいが ない ものな はあ 役に 立たない 時は 牛に

kiqkwa^{seq} sai^{ron} cumeq suikai .
 切って食わせて サイロに 積みたり するから

H (313) koto^{sa} taue-ninpu^{wa} dohiko^{zjai}
 今年は 田植人夫は いくらである

unzjarokai .
 ものだろうか

T (314) ora konmai takemaq-kijosisan^{to} iqkjota :
 俺は この前 竹町清さんと 出会ったら

gohjaku^ㄱnzjaroci judo^ㄱ.
 五百円だろうと いうぞ

H (315) (e).
 え

(316) ninpu^ㄱcinga.
 人夫賃が

T (317) o^ㄱ:.
 おう

H (318) e^ㄱ.
 ええ

T (319) nido kwaseq.
 二度 食わせて

H (320) e.
 え

(321) nido kwaseq.
 二度 食わせて

T (322) u^ㄱ:N.
 うん

H (323) e^ㄱ.
 ええ

(324) kjone^Nna^ㄱ jonhjakue^ㄱnzjaqtana^ㄱ:.
 去年はな 四百円だったな

T (325) jonhjakue^ㄱN.
 四百円

(326) ora^ㄱ jonhjaqgozju:^ㄱnzjaqta.
 俺は 四百五十円だった
 (払った)

H (327) e..
 え

(328) oma^ㄱra.
 お前……

T (329) o^ㄱ:.
 おう

(330) ko:ra tako naqta unna: .
これは 高く なった ものだなあ

H (331) jaqpai kogena unmo ma: burakude ironna
やっぱり こんな ものもよ まあ 部落で いろいろな

sju:kainan ka aq toq icijo:ni son
集会なんか ある 時 一様に その

cingin o icijo:ni ma: kimeta hoga
賃金を 一様に まあ 決めた 方が

jokaqzjaqdonna: .
よいのだけどなあ

T (332) sora jokaqzjaqdon oma: .
それは よいのけど お前

H (333) asukowa takekaqta kokowa jasikaqtaci
あそこは 高かった ここは 安かったと

juna hun /u:n/ juwan goqo.
いう ふうに 言わない ように

T (334) zjaga makoci: .
そうだが まことに

(335) nido kwaseq oma: jaqpai oma: hiq
二度 食わせて お前 やっぱり お前 ひ

hihici hitoi ni ma: ninpuo ironna
一日 ひとり まあ 人夫を いろんな

kansjoqkai hiimehikai oma: sannjo surja
間食から 昼飯から お前 計算 すれば

hjaqgozju:en zja jaqcuke a naando.
百五十円では やっつけは ならないぞ
(まかないは)

H (336) (unnja) .
いいや

(337) sa: hjaqgozju:endon zja taranwa.
それは 百五十円ぐらいでは たりないわ

T (338) u: N .
ううん

H (336) jaqpa: [jaqpa:], hooqdo [hooqdo:], ho [ho:] ninoucin [ninoucin:]
 やっぱり 〇 これだけ この 人天賃も

agaq [tasi] hitodehusoq [zjakai] [ma]:
 上がったし 人手不足だから まあ

tonarikin [zjode] katai [joqo] / [zjaqto] /
 隣近所で 語り合ってよ そうだよ

kjo:do:sagjo: [den] sui [goq] sen [na] i [kan] [na],
 共同作業でも する ように しなくては いけないな

sa: [na].
 それはな

T (340) uN.
 うん

(341) kjo:do:sagjo: [don] jaq sanoboi [don] jaqo
 共同作業でも やって 早苗饗でも やってよ

/ [uN] / ha: iro:unjonatsu jaran [na] jaqpai
 はあ 慰労のようなのを やらなくては やっぱり

i [kan] ga.
 いけないが

(342) ha: [a:] oma: doqcika juto kaqteba kaqtena
 はあん お前 どっちか いうと 勝手な 勝手な

monbaq [ka] izja un [na]: / [zjaga] / buraqno son
 もんばかりだ ものなあ そうだが 部落の その

kumia [ai] cju nana zen: [zen] ikiqcjo [rangana].
 組合という 何は 全然 生きていないがなあ

H (343) [a]:.
 ああ

(344) [mo]: joso [zja]: kjo:do:sagjo: [kai]
 もう よそでは 共同作業から

kjo:do:suizi [zui] jaqcjoq tokoga dai [bu]
 共同炊事まで やっている 所が だいぶ

[ai] jona huzjaq [do].
 あるような ふうだぞ

T (345) e^he^he^h .
ええ

H (346) t^ho so:^hj^hu:^h hitotaq^hn^ho , ma:^h hanasu kikeba^h
すると そういう 人達の まあ 話を 聞けば

ja^hq^ht^he hazimet^he ma:^h wakaq^ht^ha^hj^ho^h na huN^h
やって はじめて まあ 分かったような ふうに

ju^hja^hi^hga^hna:^h .
言われるがな

T (347) u:^N .
うん

(348) koq^hc^hi^hmo / j^ho^hk^ha^hq^ht^ha^hc^hi / koq^hc^hi^hmo^hna:^h .
こっちも よかったと こっちもな

k^hj^ho^h:^h d^ho^h:^h s^ha^hg^hj^ho^h:^h g^ha dekeN^hc^hj^hu kot^ha a^hi^hz^hj^ha^hq^hz^hi^ho^h
共同作業が できないという ことは あれだからよ

ma:^h o^hi^hga kaN^hg^he^ht^ho sic^hj^ha^hna:^h suir^hi^hr^hi^hk^ha^hi^h
まあ 俺の 考えと してはな 水利から

k^hi^hc^hj^ho^hq^ht^ho^hz^hj^ha^hr^ho^ht^ho o^hm^ho^hq^hc^hj^ho^hi^hga^hna:^h .
きているのだろうと 思うがなあ

H (349) s^ho^h:^h j^ha^hna:^h .
そうだなあ

T (350) u^N .
うん

(351) miq^hd^ho^hN^hg^ha zj^hu^hn^ht^ha^hk^hi ar^he^hb^ha sa: dagaq^hk^ha^hi^h
水などが じゅんたくに あれば それは だれのから

u^he^ht^he^N^h miq^hn^ho ne goq naq^hc^hj^hu^hw^ha n^he^hq^hz^hj^ha^hk^ha^hi
植えても 水の ない ように なるということは ないのだから

k^hu^hi^hm^ha^hq^ht^ho (zj^ha^hq^hd^ho^N^h) om^ha:^h .
実行できるのだけど お前

H (352) a:^h .
ああ

(353) j^ha^hq^hp^ha^hi m^ho:^h kok^ho^hh^he^hn^ha:^h , dog^he^hn^hz^hj^ha^hq^ht^he^N^h m^ha:^h ,
やっぱり もう ここへんは どんなにだって まあ

mizuni¹ i ci ba¹ N naja so^N bi n ta ga¹
 水に いちばん 悩 その 頭が

i te q¹ z ja k ai na¹ .
 痛いのだからな

T (354) z ja q¹ t o o .
 そうだとも

(355) omai (gi na) te ga (N) na kic j (o r a n k) a q ta¹ .
 お前の家には 手紙は きてなかった?

s i n o h o k a r a .
 市の 方から

H (356) u^N .
 うん

(357) k i c j o q ta d o .
 きていたぞ

T (358) s o : g o k a i h a c u n o n a n d e .
 総合開発の なにで.....

H (359) u^N .
 うん

T (360) a s i ta ja na : .
 明日だな

(361) n i z j u .

H (362) a s i ta ja q t a k e n a : .
 明日だったかいな

T (363) n i z j u : h a q n i q o .
 二十八日よ

H (364) u^N .
 うん

(365) n i z j u : h a q n i q z j a q t a n a : .
 二十八日だったな

T (366) u^N .
 うん

H (367) cju:oko:miNkande.
中央公民館で

T (368) u^hN.
うん

(369) oidoma ko^hra: i^htaq hanasi kiqmi^hteN
俺など これは 行って 話を 聞いてみても
jokaq^hzjaqdo^hna^h.
よいのだけどなー

H (370) u^hN.
うん

T (371) na^hN suq toka cugo:zja i^hkoja.
なに する 時は 都合では 行こうや

H (372) u^hN.
うん

(373) so^hN to^hka tenoq i^hkowa /u^hN/ jaqpai mo:
その 時は 一緒に 行こうよ やっぱり もう

i^hma^hN oqdo^hnga jo^hna^h. saqni^hga i^hqba^hN
今の 俺達の ような 作人が いちばん

ka^hngecjoq^hta jaqpai ko^hN tauega i^hqba^hN
考えているのは やっぱり この 田植えが いちばん

ka^hng^hecjoq^hna:
考えているなあ

T (374) u^h:N.
ううん

(375) tauega omo goq i^hq toki naqto jokado^hN
田植が 思う ように いく 時に なると よいけど

oma: mo ko^hra: na^hNzja imaka^hra zikimaki
お前 もう これは 何だ 今から 直播き

sai^hbaitoka agenaqga kenkju:
栽培とか あんなのが 研究

sarecjoigenazi aina^hqdo^hN naruke i^htaq
されているそうだから あれなども 習いに 行って

te^[o] ha^[u]q to^[k]o se^[n]na ika^[ŋ]a.
 手を はぶく ところを しなくては いけないが
 (ように)

H (376) a^[a]:.
 ああ

(377) ko^[n]ma^[e], ku^[m]ia i^[c]jo^[n] uq^[d]e^[i],
 この前 組合長の 家で

huk^[j]u: zi^[m]us jo^[k]ai to^[o] no: k^[j]jo: kai^[i] kite /u^[n]/
 普及事務所からと 農協から きて

iro^[n]na h^[i]rjo: no ma^[a] c^[j]u: mo^[n]to ka^[n]a /u^[n]/
 いろんな 肥料の ま 注文とかなあ

ma^[a]: ko^[i]kai sa^[q]no iro^[n]na no: g^[j]jo: no so^[n].
 まあ これから 先の いろんな 農業の その

ke^[i]eino ke^[i]ka ku^[t]o ka^[n]a /u^[n]/ a^[g]e na cu^[u].
 経営の 計画とかな あんなのを

ha^[n]asu si (ke^[k] ki^[c]jo^[i]) ja^[q]ta wa^[a].
 話を しに きておられたよ

T (378) e^[e]: z ja^[q]ke^[i].
 え そうだったかい

H (379) u^[u].
 うん

(380) o^[o]ma: mi^[e]cjo^[r]a^[n] go^[t]a q^[t]a: .
 お前 見えていない ようだった

T (381) o: ra so^[n] hja^[a]: e^[e] ha^[t]ake^[n] se^[i]si se^[i]ci (n^[n])
 俺は その 日は えー 畑の 整し 整地に

i ta^[c]jo q) ta zi (o^[o]ma:).
 行っていたから お前

H (382) e^[e]: .
 ええ

(383) ma^[a]: huk^[j]u: zi^[m]u s^[j]jo^[n] huk^[j]u: i^[n]no hi^[t]o^[n]
 まあ 普及事務所の 普及員の 人の

ja^[a]q ci na^[n]a: /u^[n]/ ma^[a]: a^[t]o z ju: ne^[n] si ta
 おっしゃるにはな まあ あと 十年 した

tokja hjaqpa:se^Nto[]] so^N zikimaki-saiba^{ri}[]]
 時は 百パーセント その 直播栽培に

na^{ra} su^Nmekai cjuoqta^{do}[]].
 なりは すまいかと おっしゃったよ

(384) mo[]] taued^o^N se^Nde^Nna[]] /u^N/ so^N mi^o[]]
 もう 田植えでも しなくてもな その 実を

ujuqto(z)jagena.
 植えるのだそうだ

T (385) u^N.
 うん

(386) ma^{ta} so miuede^e su^N goq naqto daq^zjaq^{do}^N
 また 実植えで すむ ように なると 楽だけど

oma:
 お前

H (387) u^N.
 うん

T (388) mo[]] i^{ma} oma: zjoso:za^{ja} donoto:iden[]]
 もう いま お前 除草剤は どの通りでも

a^{isi} soikuse^{ka} atono hantosa^{ja} nete^e
 あるし それこそ あとの 半歳は 寝て

kurase^(N) nara senke.
 暮らせと なりは しないかい

H (389) jaq^{pai} mo sogen^N na^{ra}na[]].
 やっぱり もう そんなに なるわな

T (390) u^N.
 うん

(391) sogen^N naq to^{ka} ja(qpai) saqninga[]]
 そんなに なる 時は やっぱり 作人が

aigate^{wa}na[]].
 ありがたいよな

H (392) a:
 あ

(393) mo i^{ma} na^Nzjaq^te^N oma:
 もう 今 何であつても お前

sjo^rjoku^{sai} baⁱci juq^sane naqda^ke te^o
 省力栽培と 言つて なるだけ 手を

/u: ^N/ habuq go^q oma: se^{nna} i^{ka}nto /u^N/
 ううん はぶく ように お前 しなくては いけないのだそうだから

(zja^{gen}azi) oma:.
 お前

T (394) muka^sja oma: wake uqⁿo sinpa^{ra} koq^de^N
 昔は お前 若い うちの 心配は 買うてでも

siⁱci juoq^tagenado^N i^{ma} soge^{nna} ne un^{na}:.
 せよと 言ひおつたそうだけど いま そんなには ない ものな

H (395) a:.
 ああ

T (396) kao go^ta n^{ewa}:.
 買う ようには ないわ

H (397) mukasino oma: ozisantaqⁿo bi^{nta}N warita
 昔の お前 小父さん達の 頭の 悪いのは

saqni^Nni na^kasi^{ci} (jujaq^tage)nado^N,
 作人に なせよと おしやつたそうだけど

/e: i^{ma} bi^{nta}N jokaq^ga oma: saqni^N(ni
 ええ いま 頭の よいのが お前 作人に

narana) i^{ka}nga^{na}: na:.
 ならなければ いけないそうだな

T (398) zjaq^ci.
 そうだと

(399) ima^Nta bi^{nta}ga i^qzi^{na}:.
 いまのは 頭が いるからな

H (400) sa: bi^{nta}ga i^ra.
 それは 頭が いるわ

T (401) a:.
 ああ

(402) kusuino cjo:go:na^Nka¹ so^N bintan^N
 薬の 調合なんか その 頭の

(warita¹) deke^Nz(i oma:).
 悪いのは できないから お前

H (403) sa¹ deken.
 そりゃあ できない

(404) jakugaido^Nga¹ derea¹ soko¹giizjai un^Nna¹.
 薬害などが てれば それっきりだ ものな

T (405) o¹o¹.
 おお

(406) ma¹ bintan^N joka tokode¹ saku¹ tanosjumi¹
 まあ 頭の よい 所で 先を 楽しみに

s¹ite ika^Nna¹ iqme¹da¹.
 して いかなくては いけないだろう

H (407) zja¹na¹.
 そうだな

T (408) un¹.
 うん

(409) mo¹ oma¹ haqgwa¹cja¹ jasun^N no:kan¹ki¹de¹ oma:
 もう お前 八月は 休み 農閑期で お前

asuqrojo¹na¹ si¹goq¹o¹.
 遊びのような 仕事よ

H (410) zjara¹.
 そうだよ

(411) ma¹ ta¹ tado^N uetoq¹kai¹ sicigwaci¹
 まあ 田 田でも 植え終えてから 七月に

naq¹ka¹ike¹na¹ horido:ru¹o¹ huq¹ta¹i
 なってからは ホリドルを ふったり

kjo:do:sagjo:de¹ suigana /un/ ma¹ an¹
 共同作業で するがな うん まあ あの

toq¹ga¹ min¹na¹ ci¹qto¹ honega¹ orura¹na¹.
 時が みんな 少し 骨が おれるわな

T (412) u: N.
うん

(413) aiba q^kaⁱja q do nⁿa'.
あればっかりだけどなあ

H (414) u N.
うん

T (415) so^N ko q ci^mo^o mi ja za q he n ta i^ga^o ho ri
その こちらも 宮崎へんあたりが ホリ

he ri ko pu ta : de^o ja i ge nⁿa^zi oma : / zja q ciⁿa^o..
ヘリコプターで やるそうだから お前 そうだってな

ho q de^o ko q ci^mo^o ma ta^a so^ge^N na q ki^te^o ku re a^a
それで こちらも また そんなに なってきて くれは

si^a i me ka i^o.
しないだろうか

H (416) ma^o so^ge^N do si^te^N na ro^zjaⁿe ke e.
まあ そんなに どうしても なろうじゃないかい

T (417) (so hi ko ba q)^kaⁱ mo^o te ma^o ha bi q mo ra wa^Nto^o
それだけ もう 手間を はぶいて 貰わないと

ma ko^ci^o i^ma^N te bu so q ka^ra^o mi go^ega^o mo^o..
まことに 今の 手不足から 辛いが もう

o^ma^o ko^ra^o kaⁿge q mi re ba o to ko : si no^o
お前 これは 考えてみれば 男の人の

de ja q to^ka^o hu te ko^ta^o ne^ziⁿa^o..
出なさる 所は 多い ことは ないからな

H (418) a: .
ああ

(419) ma^o on a go n si^ga^o u kaⁿa^o..
まあ 女の人が 多いなあ

T (420) u: N.
うん

(421) ma^ta^o oi^to^o oma i to ta i s jo : de^o
また 俺と お前と 大将で

(huqsarukan^N)na oma:[.]
 歩いて歩かなくては お前

H (422) jaq^{pa}i taisjo^{mo} orana¹ ika^N unna.
 やっぱり 大将も いなくては いけない ものな

T (423) ja¹.
 やあ

(424) ma¹ oma: koma^Nka toq^{kai} taisjo:[.]
 ま お前 小さい 時から 大将

jaqtaqzjaqzi (kodonno) kenkadaisjo:de.
 だったんだから 子供の 喧嘩大将で

H (425) ma¹ hoqdon saqni^{mo} /un/ son^N tanokusa^{do}N
 ま それでも 作人もよ その 田の草でも

toq¹ ni¹jon(zju:) zuⁱ huq(toq)ta toka¹ mo¹
 取って 二四Dまで ふり終った 時は もう

kora osimai¹jaq^{do}Nna:[.]
 これは おしまいだけどなあ

T (426) u¹: N.
 うん

H (427) soikuseka¹ mo¹, haqgwaci nareba mata
 それこそ も 八月に なれば また

kotohi^{mo} buraq^{de} kaisuijoqdomi¹
 今年も 部落で 海水浴などに

cureq(itaq) kureja¹ sijaimekai.
 連れて行って くれは しなさないだろうか

T (428) iq goq¹ kuntateq moraa^{na} iqmeda¹.
 行く ように 組み立てて 貰わなくては いくまい
 (計画して)

H (429) so¹ ja^{na}.
 そうだな

T (430) u¹: N.
 うん

(431) pi:ci:en hi^{no} siqkaq si^cjoⁱjaqzi so:ju:
 P.T.Aの 人の しっかり していっしょるから そういう

teⁿna c^odoⁿga^jona koⁿo^o de^ran uⁿmo^o
 点は 俺どものような 出ない 者も

aiga^tewa.
 ありがたいわ

H (432) ^{ma}: o^{se}n o^{se}mo^o jaq^doⁿ ko^domo^ga^o
 まあ 大人 大人も だけど 子供が

joro^ku^qkaⁱna^o.
 喜ぶからな

T (433) ^u:ⁿ.
 ううん

(434) ko^doⁿg^a oma[:] uⁿniⁱ ha^hi^me^q i^ta[:] o^zu^se^o
 子供が お前 海に 初めて 行ったら 恐ろしく

hi^qsja^ri oma[:].
 しあがって お前
 (思いやがって)

(435) ko^to^himo i^qt^ozja^qci taⁿosi^miⁱ si^cjo^qdo^o.
 今年も 行くのだと 楽しみに しとるぞ

H (436) uⁿnja oⁱgeⁿ ko^doⁿmo^o so^geⁿ zja^ra^o.
 いいや 俺の家の 子供も そんなに だよ

T (437) ^u:ⁿ.
 ううん

H (438) ko^to^himo to[:]cjan kaⁱsuijo^ki i^qtone^ci
 今年も 父ちゃん 海水浴に 行くのねと

ju[:]kaⁱna^o: /uⁿ/ ko^to^himo i^kosona
 いうからな うん 今年も 行きそうな

haⁿasi^zja^qdo^ci jue^baⁿa^o 'sa[:] ma^ta^o
 話だぞと いえばな さあ また

u^qta^qmo^o cu^re^qi^ta^q kui^janⁿeci ju^kai a^o.
 私たちも 連れて行って くださいねと いうから ああ

i^kanⁿa[:]racju (ko^qzja^qta^qo) ho^qde.
 行かなくてはねという ことだったよ それで

T (439) ^u:ⁿ.
 うん

T (440) koto'sja' unde o'joq'to joci oigen bonmo
 今年は 海で 泳ぐとよと 俺の家の 坊も

(kisika:siga) oma:, jaq'pai iqnengosi'
 言うが お前 やっぱり 一年ごとに
 (ぞんざいなことば)

(age site tosju toqkuigaci omoto)
 あんなに して 年を とってくるがと 思うと

tanosjun'dena'.
 楽しみでなあ

H (441) 'u:N.
 ううん

T (442) 'ma' neN'ni' kaisui'joq'toka iroN'na' kwank'o:toka
 ま 年に 海水浴とか いろんな 観光とか

kogenaqmo' jaq'pai' saqniN'mo' nisan'do'
 こんなのも やっぱり 作人も 二三度

moqkui 'goq' nekaraN'na' ikaN'na'.
 もってくる ように なくては いけないな

H (443) zja'na'.
 そうだな

T (444) 'u:N.
 ううん

H (445) 'ma' kokoN' buraqno' huzinbun'sja' iroN'na'
 ま ここの 部落の 婦人部の人 は いろんな

'zi'gjo:nan'ka sicjoi'jaikai 'ma: iroN'na' 'soN'
 事業なんか してられるから まあ いろんな その

'oN'sentoka /'uN/ agena toki' hara basuo
 温泉とか あんな とき ほら バスを

kaikiq i'qkjaq'doN'na' /'u:N/ otokoN'sja'
 貸切って 行かれるけどな ううん 男の人は

oma: oto:santac'ja' kora dokimo' iq kota
 お前 お父さん達は これは どこにも 行く ことは

'nedoN'na':.
 ないけどなあ

T (446) oto:saⁿ a^a uq^de zuhi^baⁿ zja(roda:).
お父さんは 家で 留守番 だろう

(447) do^a koⁿda^a o^ra i^qtaaq^do^a.
今度は 俺は 行くのだぞ

H (448) e^a koⁿda^a (omaiga) i^qto.
え 今度は お前が 行くと?

T (449) a^a:.
うん

H (450) ee:^a.
ええ

T (451) o^ri i^keci jukai (sa:) i^kaⁿna:racjuqna.
俺に 行けと いうから それは 行かなくてはねといってな

H (452) ci^qta^a otokohino i^qkjai hito oⁱjaqdokai^a.
少しは 男の人の 行きなせる 人が いらっしゃるだろうか

T (453) u:ⁿ ahikon naoqsa-oziga^a i^ka suimeka^a.
ううん あそこの 直久 叔父が 行きは すまいか

H (454) ee:^a.
ええ

(455) sa:^a jo^ka dohi^ja:na.
それは よい 同士だがな

T (456) hoqde anu hitoⁿa aⁿmai jo^ka dohi^jzja
それで あの 人とは あんまり よい 同士では
nedoⁿ oma:^a.
ないけど お前

T (457) ma^a marekeⁿa anu hito^mo tenoqmi^teⁿ
ま 稀には あの 人とも 一緒になってみても
(jua aimekai) to moq.
よくは あるまいか と 思っ

H (458) u:ⁿ.
ううん

T (459) o^ra jo^daki^jzjaqdoⁿ oma: ja^qpaiⁱ ko^domiⁱ
俺は 億劫だけど お前 やっぱり 子供に

hikareq^{na}:.
ひかれてな

H (460) jokara^{na}:.
よいがな

T (461) miqkajage^{na}zi oma: tenganni sicjokanna
三日だそうだから お前 おりこうに しておかなくては

oma: .
お前

H (462) ^uN.
うん

(463) sangaq^{no} miqka^a jaqci^{na}:.
三月の 三日 だってな

T (464) ^uN.
うん

1967(昭和42)年3月

東京都北区稻付西山町

国立国語研究所

話しことば研究室

宮地 裕 編